

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		alikids5					公表日 2026年6月1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育と活動内容に応じて空間を使い分け、動線や安全面に配慮している。	活動スペースの使い方や安全点検を継続し、必要に応じて環境調整を行う。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数、ご本人の特性、個別療育の枠、専門職の関わりを踏まえて配置を調整している。	職員間で支援内容と役割分担を確認し、安定した支援体制を継続する。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に並び、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動の見通しが特できるよう、声かけ、提示方法、環境調整を一人ひとりに合わせて行っている。	ご本人の年齢や理解力に応じ、過度な視覚支援に偏らず、必要な場面で分かりやすい提示を行う。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃・消毒を行い、活動内容に応じて机配置や活動スペースを調整している。	清潔保持と安全点検を継続する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンや個別対応が必要な場合に、落ち着いて過ごせる場所を確保している。	利用状況に応じて、個別対応時の環境設定を職員間で共有する。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		昼礼や記録、会議等で支援の目標、実施内容、振り返りを共有し、改善につなげている。	振り返り内容をさらに蓄積し、支援の標準化につなげる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価の結果やご意見を確認し、記録の工夫、相談対応、支援内容の改善につなげている。	保護者の声を定期的に整理し、職員間で共有する仕組みを継続する。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見を会議や日々の共有の中で把握し、環境調整や支援方法の改善につなげている。	職員が意見を出しやすい機会を継続する。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在、第三者による外部評価は未実施である。	外部評価や外部助言の導入について、必要性和方法を検討する。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での共有、専門職の助言、外部研修等を通じて、支援の質向上に努めている。	研修後の共有や実践への落とし込みをさらに充実させる。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域との関連を明確にした支援プログラムを整備し、必要に応じて見直しを行っている。	支援プログラムの内容を保護者にも分かりやすく伝える工夫を継続する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		初回面談、保護者からの聞き取り、日々の観察、記録等をもとに多面的にアセスメントしている。	アセスメント内容を職員間で共有し、計画作成に活かす流れを継続する。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管と担当職員がケース検討を行い、ご本人とご家族の意向を踏まえて計画を作成している。	ご本人の状態変化を踏まえ、計画内容を柔軟に見直す。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画を職員間で共有し、日々の療育内容が計画の目標に沿うよう確認している。	支援記録と計画目標のつながりをより明確にする。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールや日々の行動観察を組み合わせ、ご本人の適応行動や発達状況を確認している。	評価結果を支援方法の調整に継続して活用する。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携を踏まえ、必要な支援内容を設定している。	計画書上で各支援のねらいがより分かりやすく伝わるよう工夫する。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別課題、運動・感覚、言語・コミュニケーション、SST等を複数職員で検討している。	活動の固定化を防ぎ、発達段階に応じて内容を更新する。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節、興味関心、発達課題、個別支援計画の目標に応じて活動内容を調整している。	活動のねらいと結果を記録し、次回支援へ反映する。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		ご本人の状態に応じて、個別活動と小集団的な関わりを必要に応じて組み合わせている。	個別中心の支援の中でも、生活場面につながる社会性の機会を検討する。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員間でご本人の状態、支援内容、役割分担、留意点を確認している。	確認事項の抜けがないよう、共有方法を継続して整える。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後や記録入力時に振り返りを行い、気づきや次回の支援方針を共有している。	振り返り内容を蓄積し、職員間で活用しやすくする。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		サービス提供記録に支援内容、ご本人の反応、今後の対応を記載し、支援の検証につなげている。	記録の観点にばらつきが出ないよう、定期的に確認する。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて計画変更や支援方法の調整を行っている。	保護者や関係機関からの情報も踏まえて見直しを行う。		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議等には、ご本人の状況を把握している職員が参加し、必要な情報共有を行っている。	会議内容を職員間で共有し、日々の支援へ反映する。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の同意のもと、園・学校・相談支援・医療等と必要な情報共有を行っている。	関係機関との連携記録を整理し、継続的な支援につなげる。		

関係機関 や保護者 との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育所等訪問支援や関係機関との情報共有を通じて、生活場面への般化を意識した支援を行っている。	連携内容を個別支援計画や日々の療育へより明確に反映する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学や進級等の移行に向け、必要に応じて園・学校等と情報共有を行っている。	移行支援の時期や共有内容を計画的に整理する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて児童発達支援センターや関係機関と情報共有を行い、助言や専門的な視点から支援に活かしている。	今後も地域の児童発達支援センターとの連携機会を継続し、支援の質の向上につなげていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		保育所等訪問支援や園・学校との連携を通して、集団生活への適応を支援している。	個別療育を中心としているため、地域の子どものとの交流機会については今後の検討課題である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		写真付き記録、療育後の共有、相談対応を通じて、ご本人の状況や成長を保護者と共有している。	情報共有内容を職員間でも整理し、一貫した支援につなげる。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		個別相談や情報提供を行い、家庭での関わり方について助言している。	家族向けの学習機会や情報提供を体系的に実施できるよう検討する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書等を用いて説明し、不明点を確認している。	実施状況の記録と点検を継続する。
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児発管・担当職員間でケース検討を行い、本人と家族の意向を踏まえて作成している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を用いて支援目標や内容を説明し、保護者の同意を得たうえで支援を開始している。	ご家族により分かりやすく伝わるよう説明方法を継続して工夫する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の連絡と定期面談で困りごとを把握し、必要な助言や関係機関紹介を行っている。	実施状況の記録と点検を継続する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者席を設けており、療育見学の機会を通して保護者同士や兄弟児同士が自然に交流できる環境づくりを行っている。	今後も保護者や兄弟児が安心して過ごせる環境を維持し、必要に応じて交流の機会を充実させていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		日々の連絡と定期面談で困りごとを把握し、必要な助言や関係機関紹介を行っている。	実施状況の記録と点検を継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSや連絡ツール等で活動内容・予定・連絡事項を発信している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護方針に基づき、利用者情報の管理、書類保管、SNS・ホームページ等での情報発信時の確認を徹底している。職員間でも個人情報保護に関する意識共有を行い、適切な管理体制を維持している。	今後も個人情報保護に関する研修や職員周知を継続し、利用者・保護者が安心して利用できる体制を維持する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援やわかりやすい説明等、個々に応じた伝達方法を用いている。	実施状況の記録と点検を継続する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在の取組としては一部実施または個別対応にとどまっている。	情報発信は行っている。地域住民を招く行事等は十分ではないが、今後予定をしていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、定期的な確認と訓練を行っている。	実施状況の記録と点検を継続する。
非常時等の対応	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを整備し、災害を想定した訓練を定期的に実施している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用前情報と変更時の確認を行い、一覧で共有している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		該当児の情報を明示し、医師指示や保護者確認に基づいて対応している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、点検・研修・訓練を実施している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づき、点検・研修・訓練を実施している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例を共有し、原因分析と再発防止策を会議で確認している。	実施状況の記録と点検を継続する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		委員会・研修・セルフチェック等を通じて防止体制を整えている。	実施状況の記録と点検を継続する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ない場合の手順を定め、対象児がある場合は事前説明と計画記載を徹底している。	実施状況の記録と点検を継続する。